▼3月27日

■法政審総会粉砕

保全共第二波闘争(清水谷公園)

▼3月18日 國反弾圧集会(破防法弾圧と闘う会主催)

**爾南部労政**(5時半開場)

ح

き

年后6時

ところ 國神宮前公園 (渋谷駅下車3分)

沖縄派兵前段直擊勝利総決起集会

☆世界同時革命・世界革命戦争 世界プロレタリア独裁

3月10日 第23号 緩集発行人 南 安朗

部 3 0 円

端統料 半年 600円(〒共)



起

発行所 蜂 起 社 渋谷区広尾 5 の16の1 北村郷ーピル内 TEL 03 (448) 0 8 3 2 (抵替) 東京 1 5 1 2

■批准書交換粉砕・沖縄派兵 前段直擊勝利総決起集会

(神宮前公園6時) ■反弾圧集会 (南部労政5時半開場) ■法政審総会粉砕保全共中央 総決起集会(請水谷公園)

# 地下正規軍戦と公然闘争の総力をあげ

11 B

抜打ち移駐を糾弾!

衛隊直撃へ更なる進撃を!

は、何よりもプロ独派の阻止闘争奇襲的に移駐した。自将、隊幕僚 立川 3月8日 自

▼3月15日 躝批准書交換粉砕!

ではないのか」(九日「毎日」) いたかは、明らかにならざるをす ブル新までが、この夜襲的強行

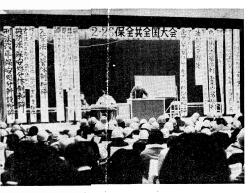
して、貯衡庁内部で、「真意は四

第行動委員会は八日早朝緊急行動 観していた機動隊が、軽超戦争派 この強行移駐に対して、わが版 青癬のデモを、手もちぶさたに傍

この立川移駐は、「災害救助部をいわれている。

こく、我々・北村第一ビル・蜂起社・繰は、我・抱先・渋谷区広尾5の8

獄中同志奪還の為





副行動隊長 宮岡 政雄

狭超集会を売ちとった。

急行動は圧倒的成功裏に貨幣され一

授隊員計11人の「抜打ち移駐」が「品の一部が佐藤(国防会議議長 前に刻印/ 韓起戦争派の登場を全人民の

という「公約」を踏みに

掲ញ争上渋谷駅茶出所への機 10・21練房第一部団直撃・占

攻撃は縁起・世界革命戦争を ての闘い」を断級闘争の只由 治戦略と軍事戦略を顕微する

一面へ続く

# やよられた。十二・五保全共結成大会の地平─蜂起・世界革命戦争派は、確実にそのゆるぎない前継を目和見主義的空文句をならべ、わ めきちらず解放派・フロント派の保全共への敵対、反革命集団=日向派の敵対をことごと した蛞蝓やに対する革命的態度を明らかにする中でからとったのである。そしてその成果は二・二七法務省第一複句問願争として三百名 る粉砕しつくし、日本武装闘争に輝かしく登場。

防法常態化の

大会の幕は、連合赤軍の銃撃戦 まずもって、のモップル社のアピ

保全共全国大会は、反革命日向「踏まえで成功要に賃徹したことを」に対す 全都・全国の献身的な活動家同 | 派の敵対、解放派の解体路線を粉 | 報告する。

連続闘争で何を獲得したか

を結集し、我が反帝戦線・叛軍破士の規律ある領導のもと「刑法 改正―保安処分粉 砕」の中央闘争のその第一歩を質徹したのである。

機先端を我々が担っている

翼保安処分粉砕

窓されたのである。続いて京都

争に備え、それぞれの部署に着い 終了して、二七日法務省第一波岡

らない。なぜなら先ファ権力に対

3・11集会へのアッピー

同盟•副行動隊長

▼ 宮 岡 政

雄



迷のこの間の闘争を担 の基調報告を踏まえ、

蜂起戦争派

百名が

大決起

塩香、新井尚賢の料弾集会

おいて、一つの「画剤」を形成し われわれば、いまほど、してきた国際共産主義運動史上に ることになるからである。

際主義とは何かを鮮明にしなけれ

| 麦は国際階級順学と、それを指導・上しての位置に自己を押している。 角を大気・これでいます。 これの第一人の一日の米中会験と「共同管理」の発・する毛沢東主義省の名響的裏返し、中、ツ、三国の関係が一米中シニ

であり、京安、連合赤軍を始めとよって明らかになった時点で、米であり、京安、連合赤軍を始めとよって明らかになった時点で、米

実現し、米中会談が行われること

われわれは、中国の国連加盟が

微することから、われわれは開始

の沖縄派共前設直接攻撃として賃 合意をみたといわれているなかで

その一歩を日帝の重心―自衛隊

が、キッシンシャーの北京訪問に

しれない。そして、疑いもなく、 であり、京安、連合赤軍を始めとには首天のヘキレキであったかも 同時革命一の精髄を忘れ去ること

か共同声明への批判を公然と表明 これに対する他者的批判をもって「ナムの平和共存ノベトナム人民 同草マル派や日向一派のように、 たことは、あまりにも当然であ こと見れりとす ることは できな この声明は中国を国際的な革命 それは、我プンドが六七年以来

一を、米中間のみならず現代世 帝国主義の台囲に対する中共の届 「平和共存」を含む「平和五原 的選択である。そして、それは |存在する国家圏の音遍的原則 服の始まりとしてある。だが、

米中会談の内実と

米中森は「二月二十一日から、野やあやら同时に、現代練習前は、なじめの第二学と「大会地図底、主体を集じしに発すくえー形成米中森は「二月二十一日から、野やあやら同時に、現代練習前は、なじめの第二学と「大会地図になって、好の報告が、米市らシガラペーリ、観響を全体が図に入れていて、日本での第二条実践に上華すが日本して、一十七月には、米井、三大小の中国にする。万田から、かって、東海を建設ら入場ので見て、は、中央の第二条実践に上華す場所は、その決定、このより、〇月町に、東では最多情報では、その決定、いから いた師郷になずら中共自身の歴史 い。かから先祖国政策権を確す

# 破防法攻撃を頂点とした 先ファ権力下の <sup>理</sup> 活動を強化せよ

# 根底的に対決する革命的戦 破防法体制常態化の攻撃に

**飛騰を通した党の改組の組織問 | ソピエット主義に紀化し軍事反対** とある。共産主義と軍事をいか タ湖流が一国主義より一層固定化すがその様な性格としてあった ルクス主義に依拠した即自的反又 を通して、党の正確に被上 北を契機として、その主体的数の一般はあったく無自覚であり、最後が同盟は、69年4・28間争の一般はまったく無自覚であり、最後 として、党の革命、党員の主体 │ 据を深めその日和見主義的内実を

蜂起の定期購読を! 600円 1年分 1200円

に対して武装反革命登場、89年10一律を克服し、闘争と活動と生活を力と日共民資の密月と全共闘運動「意識性を持ち、ブルジョア的自然

避的にはらんでいるのであり、そ、轍を機をのり切れるハドメを打っ、いるのであり従って日参力験争との一体的過程の内に不可一級労働者のパージを通してその組(い識制の質がつくりだっ

じ

た。このことは当然権力中枢内部、攻撃の形態は八子防候束、デッチをに突き刺る血路の 弾痕を残し われているのである。その具体的をに突き刺る血路の弾痕を残し われているのである。その具体的を縦力の封じ込められた電手の一隊に対する集中的攻撃としてあら の新たな実践的地平が切り開かれ、党派と十月社グループ、赤衛軍、して階級闘争における権力闘争へ、国指名手配と「蜂起戦争派」の諸 の非公然戦闘の武姦被壊戦を輸と」は数十名におよぶ革命的戦士の全争は「蜂足、戦争」派による一連」異常なまでの人警戒と取り締り又争は「蜂足、戦争」派による一連」異常なまでの人警戒と取り締りと る次元に突入するやいなや、すな ] そして三里塚反対同盟の青年行動 これが現在帝国主義の常戦体制

起こし、それは権力の上層指導部・ロソと「社会秩序防衛」を大義名に政治的動揺、軍事的恐怖を引き、上げ逮捕、別件逮捕とと入自急デ

| 大民戦 | 的運動を担否し、自然発生的暴力 | 大民戦 | 一包扱されていた中からも、体制内 | 標道 | 一包扱されていた中からも、体制内

層にとどまらず、直接的物理的戦 | 文として民間防犯連絡員と目治会

しかしその 主体的 位置を、 | 義」は敵を身はせ、攻撃の口夫を | のにおけずには剣道しているのである。 |の『「原則な き暴力気液解 争王 | 軸である。

最近の色型の影響手段とは何か」 関レて、暴力的手段を行使するこ | 質能したのである。 現代参の下での党派闘争・対立の (の間の闘争・対立の処理の形態に) の壁を粉砕し速回な欧列をもって

概争の党の思想的、理論的指導の

的教訓としてつかみとらなければ ない。 を接近させる活動がこの齧の主体 観闘争

尖鋭化する先ファ権力の反革命

に対し全人民的反撃を組織せよ

る。 に破防法・保安処分破職、とりわ 党馬、作馬として戦闘的大衆音動が先行的に追求されているのであ 獲得しなければならない、と同時 きだし、政治的・軍事的緊盗関係を

け蜂起、革命戦争派の潮煙の形成。家諸君に権力の反革命包囲網 の建設とその活動の系統的展開を一派は概念よく、大衆の創造性を引

して逆の政治的一組織包囲網を

今や権力の攻撃は、単に一般的

を指定して当時でいる。その、から近時の時間である。 を指定して当時では、東京を作り、日本のでは、日本の 副画的攻撃であるのだ。今や日本「生運動で組織労働者の労働環会運」諸階層の個々の利害関係において

九全大会と

尻目に法務省包囲戦貫徹 反革命を粉砕し宮下派の狼狽□■□

> 層的日和見主義の矛盾を含 た。登この間の正規軍=反帝戦

然なのである。解放派の語者は、 に対して弾母とした料弾

あのであったというのか、 の「まを」 の「「軍事」「非とは」へ傾 法の現在る部化をもってこそ反 がは城をきるのである。

るものであったというのか。 の予想に 反し、「単 事」「非合 のもような傾向」とは一体いかな ばならないのである。それ故寝ら

一の嫌知的外化、その真の耐能解
るのだううか。断して言うある。
せを3 同中年秋の先進的印表の」な参のううところの「配款沖縄間 がが組織したないのは革命的な質 (の種間を転換 見過ぎことは誤ったの)ない。

引用になるが蜂起、戦争派を強化

以上の98に一貫して流れるも

党ー局報との関係で把握しない。をよりリアルにあらしたものに他」の同志に対しの保全共は認めない。和実の除収縮争を権力」地下深くへの勝行は、彼らの本責一か。解放系は保全共東北ブロット

つな右翼日和見主義を産むか見て

OC名を結集して正午よりかちと それをなし法司会解局団をガ 翌日東京における刑伝改正研究

られた。集会は昨日の保全共全国マン・機動隊で戒敵令下におきな これらの策動に対しては順みさ

⑥12・5 地線研での 沖共闘集

**運動の発展の利益を獲求するため。 左翼内部の牙底生物官・その組織・全長の第一歩の間い・して・機動隊・動隊が弾圧いもかかわらず仏賞会・の 発展関係の中における反称向日 けてはく、「日本楽命部動し労働」であろうか。一われわれは岸南的「けた主撃を添くル軽船戦争派・保・わび関東の保令実の記憶・芝は関して処分の間い。共に前隊により解** もって事実を除べてしようだ』(解放 89号)などと にないいくか」自動像・中華技術部の政権を 中華技術部のような 主義的利を物に、数大の政権によって、先世院政策機の 主義的利を物に、数大の政権によって、先世級の政権 関に向けて努力と、なからますます整門、原列を衝撃 だいくようととしてといてもあろう。 める日和見主義的空語と位き事にんにちの宮下派の「合成力」を返

共闘あいさつに続き、法務省へ向 るといったものものしさで大会の成功をふまえ、基調ー地区 お裏口から単で参加省を中

で列に自倒長の闘争術性における「水ス~ホリレでいるのではない 神輿は挟動やノーンが大衆的に 護感された ものである。 はっきりこ、「業帯をむだない 脚手大球形でした。 かった 大野電子 かった はっきりこ、「業帯をむだない 脚手大球形で・ファンが大衆的に 護感された ものである。 はっきりこ、「業帯をむだない 脚手大球形で・ファンド大衆的に 護婦をした にいました にいました にいました にいまい しゅうしゅう ) し15日、批準書交換粉砕派兵程撃 の し15日、批準書交換粉砕派兵程撃

(収) 呼、地形の素別を認識検性衛星、人間間里、の費用を得って、集力、性能級の「東」ともの得え着目命。「サイベルは前期等の背壁としている」としている。「本人に上間機能能を再開車」の「四角」で入りを得る。「本人の裏の形態だりが、「東京」で、事の観から重要を加入ったので、「のからの形態がした。」をいる様式は表情のの時間・一貫を使いる。「要ないます」、「本規則としている。」「要ないます」、「本規則としている。」「要ないます」というの指すがなっている。「要ないます」と、東の間は機においても非る体下が、「ないに接付います」と、東の間は機においても非る体下が、「ないに接付います」と、東の間は機においても非る体下が、「ないに接付います」と、東の間は機においても非る体下が、「ないに接付います」と、東の間は機においても非る体下が、「ないに接付います」と、東の間は機においても非る体下が、「ないに接付います」と、東の間は機においても非る体下が、「ないに接付います」と、東の間は機においても非る体下が、「ないに接付います」と、「ない」というでは、「ない」」というでは、「ない」というい。「ない」というでは、「ない」というでは、「ない」というでは、「ない」というでは、「ない」というでは、「ない」というでは、「ない」というでは、「ない」というでは、「ない」というでは、「ない」というでは、「ない」というでは、「ない」というでは、「ない」というでは、「ない」というない。「ない」といういは、「ない」といういい。「ない」といういいましい。「ない」といういいい。「ない」といいましい。「ない」といういいましい。「ない」というでは、「ない」といういい。」といういいっしいっしい。「ない」といういいい。「ない」といういいっしい。「ない」といういいっしい。「ない」といういは、「ない」」といっしいいっしい。「ない」といういいっしい。「ない」といっしいい。」というない、「ない」といういいっしい。「ない」というでは、「ない」といっしい。「ない」といういは、「ない」とい

#